

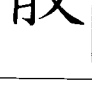
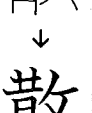
# 散

四年

回数 12  
筆順 一 廿 卅 卌 散

ちりる・ちらりすりかす  
かかる

成り立ち



手にぼうを持った形を表した「攴(教2年115)」と、肉の意味を表した「月」と、サンという音を表した「𠂔」とを組み合わせて作った字です。

肉を食べやすくするために、ぼうでたたいて「ばらばらにする」ことを表した字です。「ばらばらにする」意味、また「ばらばらになる」という意味に使われます。【例】分散、解散、散在、散逸。

「ちらす」「ちらす」「ちらかす」「ちらかる」という意味にも使われます。【例】発散、散乱。

また、「自由でとらわれない」という意味にも使われます。【例】散歩、散文。

使い方

▽秋になると木の葉が散って、なにか、ものがなしい気持ちになります。

▽わが家の近くには、小川が流れています。小川のほとりを散歩すると、とてもゆかいな気分になります。

熟語例

▽分散(ばらばらに分かれること。散らばっていること。「この会社の工場は、各地に分散している」などというふうに、つかいます。)

▽解散(集まった人が、グループを解いて散り散りになること。)

▽散在(ばらばらになって、あること。「この地方には、名所旧跡が散在している」などと、つかいます。)

▽散逸(ばらばらになって、なくなってしまうこと。「重要な資料が散逸して、大変こまった」というふうに、つかいます。)

▽発散(外へ散らすこと。「運動をして気分を発散させる」などというふうに、つかいます。)

▽散乱(散らかって乱れること。「机の上に、本やノートが散乱している」などというふうに、つかいます。)

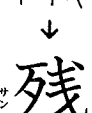
# 残

四年

回数 10  
筆順 夕 殸 残 残 残

ザン  
のこりす

成り立ち



「戈(戦4年562)」を交えて戦う、という意味の「戔」と、「死体(死3年307)」の意味の「殸」とを組み合わせて作った字です。「戦ったあとにのこった死体」という意味の字です。

「のこる」「のこす」という意味に使われます。【例】残金、残留、残雪、残骸。

また、「むごい」という意味にも使われます。【例】残酷、残虐。

〔旧字体の「戔」でなくても、「戔」で「戈を交えて戦う」意味は十分に理解できると思うので、あえて旧字体で解字しなかったが、軽く「元は「戔」だった」と述べるのは良いと思う。〕

使い方

▽残念ながら、今日の試合には負けてしまったが、残った試合には、がんばりましょう。

▽春になったが、高い山の頂上には、まだ残雪が残っています。

熟語例

▽残金(残ったお金。「残金は、支払い期限までに、払い込んでください」などというふうに、つかいます。)

▽残留(残って、留まること。「一組は先発し、二組は、しばらくの間、残留した」などというふうに、つかいます。)

▽残雪(残った雪)

▽残骸(残った死体。また、こわれたものや、役に立たなくなった残り)

▽残酷(むごく、ひどいこと。「そんな小さな犬をいじめなんて、なんて残酷な人だろう」などというふうに、つかいます。)

▽残虐(むごたらしく虐げること。「残酷な戦争の犠牲となった人々に、祈りをささげる」などというふうに、つかいます。)